

宮城県感染症発生動向調査情報(第34週)

宮城県【平成26年08月28日】発行
宮城県保健環境センター
TEL (022)257-7228

- 2014. 8. 18 ~ 8. 24 ・ 第34週 -

上段は患者発生数、下段は定点当り

疾 病	保 健 所							宮 城 県 (含む仙台市)				今週の全数報告疾病			
	仙南	塩釜	大崎	栗原	登米	石巻	気仙沼	患者数	患者数	累計	第31週		第32週	第33週	第34週
水痘	3 0.60	5 0.50	3 0.60	3 1.50	1 0.33	1 0.20		10 0.38	26 0.45	1,366	レ→	→	→	○	
流行性耳下腺炎		2 0.20			2 0.67			9 0.35	13 0.22	444	→	→	→		
百日咳											→	→	→		
感染性胃腸炎	28 5.60	20 2.00	8 1.60	15 7.50	17 5.67	1 0.20	1 0.50	68 2.72	158 2.72	14,162	◎→	◎→	◎→	◎	
手足口病	1 0.20	3 0.30	3 0.60		2 0.67			13 0.50	22 0.38	198	→	→	→		
伝染性紅斑	1 0.20	3 0.30	17 3.40	2 1.00	13 4.33	18 3.60		13 0.50	67 1.16	1,788	◎→	◎→	○→	○	
突発性発しん	4 0.80	6 0.60	8 1.60	2 1.00	3 1.00	6 1.20	1 0.50	24 0.92	54 0.93	1,297	○→	○→	レ→	○	
ヘルパンギーナ	15 3.00	43 4.30	23 4.60	14 7.00	27 9.00	38 7.60	5 2.50	66 2.54	231 3.98	1,010	◎→	◎→	◎→	◎	
インフルエンザ											→	→	→		
咽頭結膜熱		2 0.20	2 0.40		1 0.33	4 0.80		5 0.19	14 0.24	495	→	→	→		
流行性角結膜炎	2 2.00							2 0.33	4 0.33	98	→	→	→		
急性出血性結膜炎								1 0.17	1 0.08	5	→	→	→		
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2 0.40	7 0.70				8 1.60		22 0.85	39 0.67	4,133	◎→	◎→	○→	○	
細菌性髄膜炎(真菌性を含む)											→	→	→		
無菌性髄膜炎											→	→	→		
マイコプラズマ肺炎		1 1.00		1 1.00			6 6.00	4 0.80	12 1.00	295	→	→	→		
クラミジア肺炎(オウム病は除く)											→	→	→		
RSウイルス感染症								5 0.19	5 0.09	389	→	→	→		
拡大疾病	マイコプラズマ肺炎(小児科)		1	5	1			6	◎：流行の変化について、今後の情報に十分注意 ○：発生または流行について、今後の情報に留意 レ：発生が少なくなっている傾向						
	川崎病								【週報の詳細】宮城県保健環境センターのホームページをご覧ください。 http://www.ihe.pref.miyagi.jp/~kansen-center/						
	不明発疹症							7							
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)※								52						

1類感染症: 報告なし ※男児、女児は6歳未満
2類感染症: 結核
仙南管内 男性1名
仙台管内 男性3名、女性3名
3類感染症: 細菌性赤痢
仙台管内 女性1名
腸管出血性大腸菌感染症(O157)
仙台管内 女性1名
腸管出血性大腸菌感染症(O26)
仙台管内 男性1名、女性1名、女児1名※
腸管出血性大腸菌感染症(O145)
仙南管内 男性1名、女性2名
4類感染症: 報告なし
5類感染症: 報告なし

今週のインフルエンザによる入院患者報告(仙台市を含む基幹定点報告) 0例

今週の感染症のコメント
- 宮城県感染症対策委員会情報解析部会 -

【伝染性紅斑】
大崎管内で警報値を超えた。
登米、石巻管内で警報継続中。
【ヘルパンギーナ】
栗原、登米、石巻管内で警報継続中。

【病原体検出情報】
～宮城県保健環境センター～
腸管出血性大腸菌感染症患者より
岩沼管内のO103関連 第34週採取分 O103 1件

～仙台医療センターウイルスセンター～
第32週採取分 第33週採取分 第34週採取分
(8.4～8.10) (8.11～8.17) (8.18～8.24)

バライフルエンザウイルス1型 1件 0件 0件
バライフルエンザウイルス3型 3件 0件 0件
RSウイルス 2件 2件 2件
アデノウイルス 1件 1件 0件

【腸管出血性大腸菌感染症】
腸管出血性大腸菌の感染は、飲食物を介した経口感染やヒト-ヒト感染などによって引き起こされる感染症である。O157やO26のほかO121やO103などタイプ異なる大腸菌がある。夏季の流行期に入り、今週は仙南、仙台管内で患者報告があり、保健環境センターでもO103が検出されていることから今後も注意が必要である。

※ 法改正により、平成25年10月14日より、ロタウイルスが原因の感染性胃腸炎について、基幹定点より報告を求めることになりました。

定点把握の対象となる5類感染症(全国 第32週) (国立感染症研究所感染症疫学センターホームページより抜粋)

インフルエンザ: 定点当たり報告数は減少した。都道府県別の上位3位は沖縄県(0.72)、福岡県(0.08)、岐阜県(0.07)である。基幹定点からのインフルエンザ入院サーベイランスにおける報告数は1例と前週と比較して減少した。都道府県別では兵庫県から報告があった。**RSウイルス感染症:** 報告数は1551例と2週連続で増加した。年齢別では1歳以下の報告数が全体の約83%を占めている。**咽頭結膜熱:** 定点当たり報告数は減少したが、過去5年間の同時期(前週、当該週、後週)と比較してやや多い。都道府県別の上位3位は群馬県(1.03)、京都府(0.99)、島根県(0.96)である。**A群溶血性レンサ球菌咽頭炎:** 定点当たり報告数は第23週以降減少が続いているが、過去5年間の同時期と比較してやや多い。都道府県別の上位3位は島根県(2.26)、山口県(1.59)、福岡県(1.57)である。**感染性胃腸炎:** 定点当たり報告数は減少したが、過去5年間の同時期と比較してやや多い。都道府県別の上位3位は大分県(8.22)、愛媛県(5.62)、宮崎県(5.33)である。**水痘:** 定点当たり報告数は第24週以降減少が続いている。都道府県別の上位3位は福井県(1.59)、長野県(1.06)、大分県(1.06)、香川県(0.93)である。**手足口病:** 定点当たり報告数は減少した。都道府県別の上位3位は石川県(3.69)、福岡県(3.58)、大分県(2.81)である。**百日咳:** 定点当たり報告数は増加した。都道府県別の上位3位は和歌山県(0.13)、沖縄県(0.12)、兵庫県(0.11)、鳥取県(0.11)である。**ヘルパンギーナ:** 定点当たり報告数は減少したが、過去5年間の同時期と比較してやや多い。都道府県別の上位3位は長野県(10.06)、山形県(9.97)、新潟県(9.26)である。**マイコプラズマ肺炎:** 定点当たり報告数は2週連続で増加した。都道府県別の上位3位は富山県(1.40)、石川県(1.20)、長崎県(0.92)である。**感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る):** 定点当たり報告数は第21週以降減少が続いている。4県から4例報告があり、年齢別では1～4歳(2例)、10代(2例)であった。

* 全国の指定された医療機関(小児科定点(約3,000カ所)、インフルエンザ(小児科・内科)定点(約5,000カ所)、眼科定点(約600カ所)、基幹定点(約500カ所)の集計結果です。()内数字: 定点当たり報告数